

大府かわら版

防府市デイサービスセンターを視察



厚生文教委員会

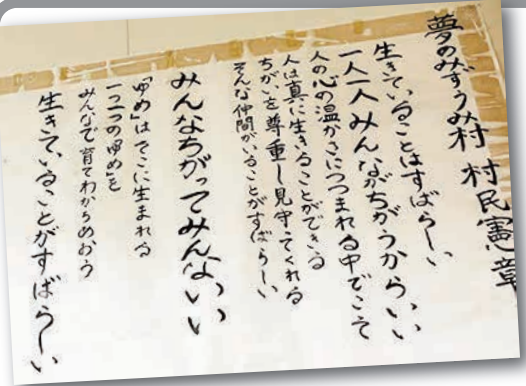
日本共産党・久永かずえ市議は今年度、教育や福祉などが所管の厚生文教委員会に所属。同委員会が11月5日(火)～7日(木)に堺市、岡山市、防府市などで行った介護予防等についての視察に参加しました。このうち山口県防府市の視察について、今号で報告します。

コミニク
な
実践
経験

「健康都市おおぶ」づくりで生かしたい

「自立」を支援

防府デイサービスセンターは愛称「夢のみずうみ村」。利用者は「村民」と呼ばれ理念を示した「村民憲章」を掲げています(左の写真)。介護・支援を必要とする方がなるべく居宅で能力に応じた自立生活を営めるように、必要な世話や機能訓練を行うことで、利用者が孤立感を覚えず心身機能を維持し、ご家族の負担軽減も図ることが運営の目的。「夢のみずうみ村」創設者の藤原茂さん「作業療法士」は、決められた機能回復リハビリではなく趣味や娯楽など利用者がやってみたいと思える「仕掛けづくり」を行い、体を動かすことで機能回復につなげていく、という理念を大事にしておられました。



理念に共感

藤原さんは全国で講演を行っておられ、久永議員も1期目のとき東浦町での講演会に参加。その理念に共感しました。



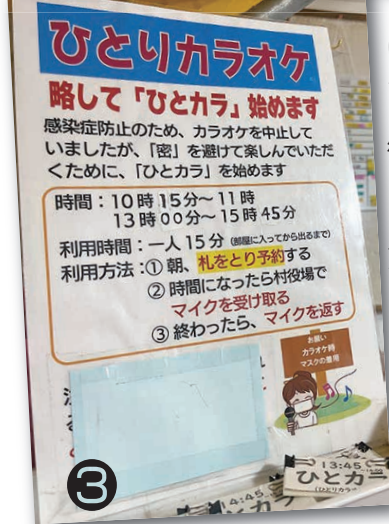
●施設内で使えるお金
そのとりくみの一つが「施設内通貨『ユーメ』」です(写真①)。額面ユーメから5千ユーメまであり、施設内各所に設置される「脳トレ」やウォーキング等をやると、百ユーメ、二百ユーメともらえる仕組み。それを貯めてコーヒーマシナ(五百ユーメ)などを飲む。施設内とはいえ自由に使える「お金」があつて生きがいや楽しみの一つになっています。



④ 2階から見る配膳の様子



●利用者さんが案内役に
視察一行を案内してくれたのは20年来の利用者さん。病気で杖をつきながらも「1日1万歩が目標。案内するのはリハビリにもなる」。仕事なので案内料5千ユーメが支給され、それを使って来客にコーヒーマシナに使って盛り上がった「貯金」をしたりと、ユーメの活用は様々です。



●1人1人を尊重して
「通うのが楽しい」と利用者の声。生き生きと主体的に生活している印象です。利用者との信頼関係より質の高い介護が職員にも求められますが、利用者1人1人が尊重され「人の役に立ちたい」「働きたい」という思いが大事にされていると感じました。

●自分でやること決めて
2階まである広い施設(写真④)には各自の能力に応じた自立生活への多くの工夫が。特定のスケジュールはなく自分でやりたいことを決めて、木工作業やカラオケ(写真③)、料理、お菓子作りなど様々に過ごします。もちろん「何もしない」という選択も。手すり等はなく家具や杖を頼りに自分でできることを最大限に、という施設です。

視察を終えて 市議 久永かずえ

とくに認知症の発症をきっかけに自由にお金を使うことが難しくなったり、外出の機会が減ることで対価を得ることや買い物に出かけることも減っていきます。この点で防府市の「ユーメ通貨を自分で自由に使える仕組み」はとても興味深いものでした。また、決められた運動をこなすという受け身でなく、自分の役

割や日々の目標が分かりやすい対価として受け取れて、結果的に運動能力の維持や向上につながるという防府市デイサービスセンターの理念は、「健康都市おおぶ」を掲げる大府市として、「介護予防」につなげていくことができると考えます。市の「高齢者八策」を進めていく上で参考にしていく一つだと感じました。



相談はお気軽に
声かけください

生活相談 日常生活の困りごとについてご相談ください。

予約制で
弁護士が対応

法律相談

12月18日(水)午後6時～^{無料}

お急ぎの方も、まずは久永議員へ
久永かずえ 090-1758-3521
携帯電話